



北海道鉄道消滅危機！全国のバスは大丈夫か  
交通ネットワークは国家戦略の目線で検討を

■9月9日、JR北海道が今年度の第1四半期の輸送密度や収支などを路線ごとに公開した。これによると新型コロナウイルス及び、緊急事態宣言による移動の制限などの影響を鉄道がモロに受けた「惨状」が目当たり出来る。全ての路線で乗客数は激減し、特に北海道新幹線の91%減を筆頭に、特急列車の運転区間での減少が著しい。JR北海道が2016年に公表した「単独では維持困難な路線」は社会に衝撃を与えたが、この維持困難路線がさらに拡大する恐れもある。なお、当時の発表によると輸送密度が200人/日の場合は鉄道よりも他の交通機関の方が最適である、と明記しておりコロナ禍でこの「デッドライン」を割り込む路線が増大している。

■図2はJR北海道が公開したデータを基に減少率を割り出し、地図に落とし込んだものである。図1と比べると明らかなように、これを見ると全道にわたって影響が及びかつ深刻化している。第1四半期は最低期の数字だろうが、2019年以降の利用に戻ることは二度とないだろう。デッドラインを割り込む路線の中には、稚内や根室、網走に至る路線など北海道の地方拠点に至る路線も含まれている。そしてこの危機は全国の電車バス全てに及んでいるだろう。これらの路線が消滅してしまうことは災害時の対応やネットワークの観点から果たして望ましい状況であるのか。コロナ禍後の地域の公共交通は、国家戦略的な目線で考えて、新たな攻めに転じる必要があるだろう。

図 1 (左) : JR北海道が2016年に公表した単独では維持困難な路線。

図 2 (右) : JR北海道が公表した2020に公表した資料を基に作成 (表1より)。コロナによる影響で200人/日を下回った路線は黒、1000人/日を下回った路線は黒の破線、赤は1000人/日以上で表している。

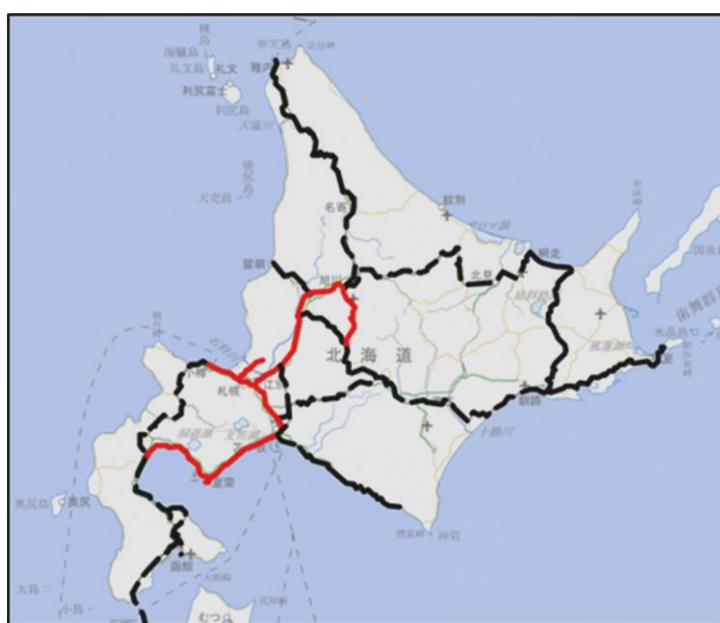
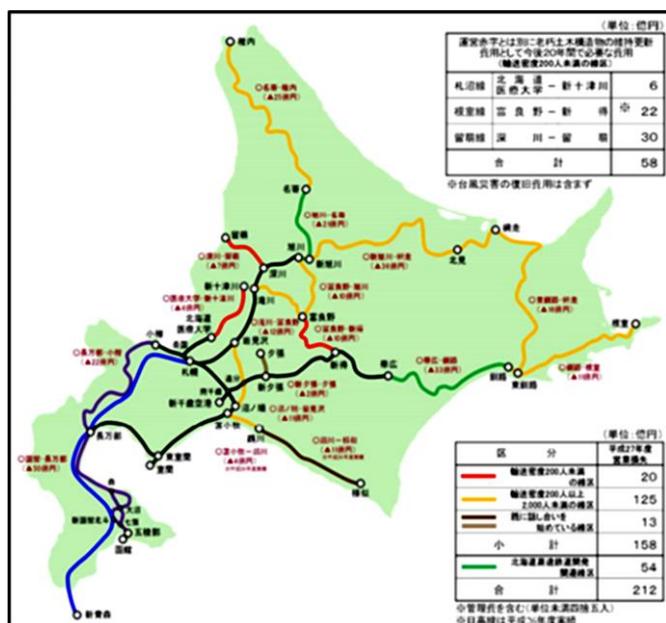


表1：JR 北海道の輸送密度の落差（出典：JR 北海道の「2020 年度第1 四半期線区別の収支と利用状況について（4～6 月実績）」より作成）※日高本線鷓川～様似間は廃止が確定している。

線名・区間			輸送密度（人／日）		減少幅
			2019年	2020年	
1	根室線	富良野～新得	84	64	△24%
2	留萌線	深川～留萌	146	78	△47%
3	日高線	鷓川～様似	115	96	△17%
4	宗谷線	名寄～稚内	312	92	△71%
5	根室線	釧路～根室	261	126	△52%
6	根室線	滝川～富良野	383	171	△55%
7	室蘭線	沼ノ端～岩見沢	432	310	△28%
8	釧網線	東釧路～網走	342	176	△49%
9	日高線	苫小牧～鷓川	577	521	△10%
10	石北線	新旭川～上川	1014	505	△50%
11	石北線	上川～網走	668	321	△52%
12	富良野線	富良野～旭川	1415	1044	△26%
13	石勝・根室線	南千歳～帯広	3203	769	△76%
14	室蘭線	長万部～東室蘭	4817	1103	△77%
15	室蘭線	室蘭～苫小牧	6705	2220	△67%
16	函館線	岩見沢～旭川	7714	2563	△67%
17	札沼線	桑園～医療大学	18887	10617	△44%
18	函館線	札幌～岩見沢	43253	23104	△47%
19	千歳・東室蘭線	白石～苫小牧	47161	19008	△60%
20	函館線	小樽～札幌	47006	25154	△46%
21	宗谷線	旭川～名寄	1351	686	△49%
22	根室線	帯広～釧路	1444	443	△69%
23	新幹線	新青森～新函館北斗	5725	524	△91%
24	函館線	長万部～小樽	590	309	△48%
25	函館線	函館～長万部	3641	761	△79%

NPO 法人公共の交通ラケダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F  
 TEL & FAX：086-232-5502 E-Mail：info@racda-okayama.org  
 URL: <http://www.racda-okayama.org>

RACDA

Q 検索

